

# ミツバチでSDGs



社屋ビルに置かれたミツバチの巣箱  
＝岐阜市の秋田屋本店城南事業所

## 岐阜の老舗問屋、「企業養蜂」のすすめ

会社でミツバチを飼ってSDGs（持続可能な開発目標）に貢献しませんか……。養蜂器具販売の「秋田屋本店」（岐阜市）が、企業向けの養蜂サポート事業を始めた。ミツバチが植物の受粉を助けることで地域に緑が増えるとして、企業に社会貢献の一環で取り組んでもらう狙いだ。

「企業養蜂」と名づけた新事業。2月下旬に販売を始めたのは、ミツバチの群れと巣箱などの器具44点に、社員2人分の宿泊研修費を含めたスタートパック（118万円）。研修は春と秋の計5日間、県内である。養蜂の基本から、群れを全滅させないための越冬技術などを学ぶ。

岐阜は、日本の近代養蜂発祥の地とされ、秋田屋本店は1887（明治20）年から養蜂事業を手がける老舗の問屋だ。30年以上前からアマチュアの愛好家にも器具を販売している。ミツバチは半径2〜3km圏内を行動範囲にして植物の受粉を助けると

## 研修＋群れと巣箱付き器具販売



SDGsの取り組みとして「企業養蜂」を勧める中村源次郎社長＝岐阜市の秋田屋本店

いう。養蜂は東京・銀座や大阪・梅田のビル街でも行われてきた。菅義偉首相が「温室効果ガスの排出を2050年までに実質ゼロにする」という目標を掲げたこともあり、企業の環境意識は高まっている。こうした流れを受け、秋田屋本店も企業向けの事業を本格化させた。

巣箱はビルの屋上や工場・倉庫の空き地、自動車メーカーのテストコース用地など様々な場所に置ける。毎日の餌やりやふんの処理は必要ないが、週1回ほど巣箱の点検をすることで、社員の交流にもつながるとアピールする。同社養蜂部の梅原雪奈さん（28）は「ハチは巣箱までトコトコトコツと歩き、小さくても懸命に働く。見ているとほっこりした気持ちで、応援したくなる」と話す。初年度は50社への導入をめざす。

製造業が盛んな東海地方を中心に全国へ展開したいという。中村源次郎社長（69）は「企業は二酸化炭素の排出削減の工夫を重ねてきた。養蜂で地域の緑を増やし、より取り組みを進めてもらえれば」。問い合わせは同社（058・272・1311）。

（高木文子）



販売する養蜂器具のセット。巣箱やハチミツを採取するための遠心分離器などがある。秋田屋本店提供